

行政視察報告書

令和 8 年 3 月 16 日

長浜市議会議長 伊藤喜久雄 様

長浜市議会議員 岩川 信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 恵風会行政視察
2. 視察期間 令和 8 年 3 月 3 日 (火) ~ 3 月 4 日 (水)
3. 視察場所及び目的
 - ① 奈良県郡山市豊臣兄弟！大和郡山大河ドラマ館
・観光振興や地域活性化の取組について
 - ② 奈良県大和郡山紺屋町 「紺屋館」
・歴史的町並みの再生につて
 - ③ 兵庫県神戸市中央区 人と防災未来センター
・防災教育の重要性について

4. 調査内容感想等

・視察の目的

- ① 奈良県郡山市豊臣兄弟！大和郡山大河ドラマ館

NHK 大河ドラマの放送を契機として整備された大河ドラマ館の運営状況や観光誘客の取組について調査し、歴史資源を活用した観光振興や地域活性化の手法を学び、本市の観光政策の参考とすることを目的として視察を行った。

- ② 奈良県大和郡山紺屋町 「紺屋館」

歴史的町並みの保存と活用を図りながら、地域のにぎわい創出や観光振興につなげている先進事例として、紺屋町にある紺屋館の運営手法や活用状況を調査することを目的とした。

特に、歴史的建造物の保存と利活用の両立、地域住民や民間との連携による運営のあり方について、本市における今後のまちづくり施策への示唆を得るため視察を行った。

③ 兵庫県神戸市中央区 人と防災未来センター

阪神・淡路大震災の教訓を伝える防災教育施設の取組を調査し、防災教育の重要性や災害の記憶を継承する仕組みについて学び、本市の防災施策の参考とすることを目的として視察を行った。

・ 視察の内容

1・大和郡山市では、豊臣秀長ゆかりの歴史資源を活かした「秀長博覧会」の取組について説明を受け、歴史人物をテーマとしたイベントによる観光誘客や地域活性化の工夫について視察を行った。

博覧会の開催期間は、秀長の誕生日である3月2日を開幕日とし、命日にあたる1月22日を閉館日とするなど、歴史的人物の生涯にちなみ設定されており、歴史的なストーリー性を持たせた企画となっていました。

展示会場は、DMG MORI やまと郡山城ホール1階を活用し、展示室を5つのブースに分けて構成されていた。会場内では出演キャストの紹介や人物関連図の展示、映像を上映するシアタールームなどが設けられ、来館者が豊臣秀長の人物像や当時の歴史背景を分かりやすく学べるよう工夫されていた。

また、同博覧会館長である井上宏氏からの説明では、天下統一を進めた豊臣秀吉を「太陽」、その裏で政治を支えた豊臣秀長を「月」に

例え、そのイメージを表現した展示構成が会場全体を囲む形で設けられており、秀長の役割や人物像を象徴的に表現している点が印象的であった。





さらに、周辺には郡山城跡や郡山城跡 東多聞櫓などの歴史資源があり、博覧会と合わせて周辺観光地を巡ることで、地域全体の歴史文化を体感できる仕組みとなっていました。

郡山城跡の石垣については、良質な石材が不足していたことから、近隣の寺社にあった石仏や灯籠、墓石などが集められ、石垣の材料として使用



されたとされている。現在でも石垣の中には、石仏などが上下逆さまに埋め込まれている様子が確認でき、当時の築城の歴史を伝える貴重な史跡となっていました。



2・紺屋館は、江戸時代の町家を活用した施設であり、かつての染物業（紺屋）の営みを今に伝えるとともに、観光拠点・交流施設として整備されていると感じました。

館内では、染物に用いられていた大型の甕（かめ）や道具類が保存・展示されており、当時の作業工程や生活の様子を具体的に感じ取ることができる構成となってい

る。単なるパネル展示にとどまらず、実物資料を活かした立体的な展示により、来訪者が歴史を“体感”できる工夫がなされている点が印象的でした。

また、季節行事と連動した展示として、ひな人形と金魚を組み合わせた装飾展示が行われており、地域文化と観光要素を融合させた演出により、来訪者の関心を引き付ける工夫に驚きました。こうした企画は、リピーターの創出や滞在時間の延伸にもつながると考えま



さらに、施設内には物販スペースが設けられ、藍染製品や小物など地域資源を活かした商品が販売されているほか、レンタサイクルの案内も掲示されており、観光客の回遊を促す拠点機能も担っていることが確認できました。単なる展示施設ではなく、「立ち寄り・滞在・周遊」を意識した複合的な機能を有している点は特筆すべきであり、



加えて、館内は自由に出入りしやすい開放的な空間となっており、観光客のみならず地域住民も利用しやすい雰囲気が醸成されていた。こうした「日常に開かれた施設」としてのあり方は、持続的な利用につながる重要な要素であると感じた。

また、紺屋館単体ではなく、周辺の町並みや景観と一体となった整備がなされており、来訪者が自然にエリア内を回遊できる構造となっていることから、「点」ではなく「面」として魅力 を高めるまちづくりの重要性を改めて認識した。

3・人と防災未来センターは、1995年に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝えることを目的として設立された防災学習施設であり、震災の記録や被災状況を、映像・資料・体験展示を通じて体系的に学ぶことができる施設である。

館内では、震災発生直後の街の様子を再現した大型映像が上映され、建物の倒壊や火災の広がり、人々の混乱の様子がリアルに表現されており、単なる知識としてではなく「自分ごと」として災害を捉えることができる構成となっていた。特に、被災者の証言映像では、発災直後の判断や避難行動、地域での助け合いの実態が語られており、災害時における初動対応や共助の重要性について深く考えさせられる内容であった。



また、展示は時系列で整理されており、「発災直後」「避難生活」「復旧・復興」と段階ごとに学べる構成となっている点も特徴的である。これにより、災害は単発の出来事ではなく、その後の生活再建や地域再生まで含めた長期的な課題であることを理解することができた。



さらに、施設では学校教育との連携による防災学習プログラムや、防災リーダーの育成研修、地域住民を対象とした講座などが体系的に実施されており、「展示して終わり」ではなく、人材育成や地域防災力の向上につなげる仕組みが構築されている点が非常に参考となった。

加えて、来館者が自ら考え行動につなげることを重視した展示構成となっており、単なる見学にとどまらず、防災意識の向上と具体的な備えの必要性を強く認識させる内容であった。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

* 本市においても2月1日から12月2日までの北近江豊臣博覧会は、大通寺周辺を中心に観光エリアの拡充が進められているところであるが、今回視察した大和郡山市では、城跡や文化施設などの歴史資源が徒歩数分の距離に集積しており、来訪者が歩いて巡ることができる観光動線が形成されている点に魅力を感じた。

本市も、歴史資源や文化財が数多く存在しており、これらを単独の観光施設として活用するのではなく、地域全体で連携した観光施策を展開することが重要である。例えば、歴史人物や地域の物語性を活かした企画展示やイベントの開催、商店街や観光施設と連携した周遊型観光の推進など、地域一体となった観光振興の取組を進める必要があると考えます。

また現在、名古屋市の中村公園、大和郡山市、そして長浜市の三地域において、豊臣秀吉・秀長ゆかりの地として連携した取組が進められているが、その事業効果や観光誘客への波及についても、今後しっかりと検証していくことが重要であると思う。

今後は、こうした広域
がら、本市の歴史文化
信し、地域全体で観光
組が求められるものと



連携の成果を踏まえな
資源の魅力をさらに発
振興につなげていく取
考える。

*** 大和郡山市紺屋町に所在する紺屋館は、歴史的建造物を単に保存するにとどまらず、展示・体験・物販等を組み合わせることで、日常的に人が訪れる拠点として活用されており、「保存から活用へ」の好事例であると感じた。**

特に、地域住民や関係団体が主体的に運営に関わり、観光客のみならず地域住民の利用も見込んだ施設運営がなされている点、また周辺の町並みや商業機能と連携しながらエリア全体としての魅力向上が図られている点は、本市にとって大いに参考となるものである。

本市においても、黒壁スクエアをはじめ、歴史的建造物を活かしたまちづくりが進められており、また長浜鉄道スクエアや大通寺など、歴史・文化資源を有する地域であります。

しかしながら、これらの資源については、個別施設ごとの活用にとどまり、周辺エリアとの一体的な連携や、日常的なにぎわい創出という点においては、なお課題があると考えられる。

今回の視察を踏まえ、本市においては、歴史的建造物の保存と活用を両立させるとともに、物販や体験機能の導入による収益確保、さらには地域住民や民間事業者が主体的に関わる運営体制の構築を進める必要があると思う。

加えて、個別施設の整備にとどまらず、周辺の町並みや商業機能と連携した面的な整備を推進し、回遊性の向上と滞在時間の延伸を図ることで、地域全体の価値向上につなげていくことが重要であり、今後は、本市の歴史的建造物や文化資源を点としてではなく面として捉え、地域全体で歴史文化を地域全体で歴史文化を体感できる観光まちづくりを推進するとともに、持続可能な保存活用の仕組みづくりについて、より具体的な検討を進めていく必要があると思います。

なお、今後の具体的施策としては、歴史的建造物の持続的な活用を図るため、以下の取組について検討を進める必要がある。

第一に、施設の効率的かつ柔軟な運営を実現するため、指定管理者制度の活用やエリアマネジメントの導入により、民間のノウハウを活かした運営体制の構築を図ることである。

第二に、民間事業者との連携を一層推進する観点から、PPP・PFI手法の導入を視野に入れ、施設整備から運営までを一体的に担う仕組みの構築を検討する必要がある。

第三に、地域に点在する空き町家や歴史的建造物の活用を促進するため、改修費補助や利活用マッチングなどの支援制度を充実させ、民間による活用を後押しする仕組みづくりが求められる。

これらの施策を総合的に推進することで、歴史資源を活かした持続可能なまちづくりと、にぎわいの創出につなげていくことが重要である。

* 人と防災未来センター は、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝える施設として、防災教育や防災意識の向上に大きな役割を果たしている。館内では、震災当時の状況を再現した映像や資料展示、被災者の証言などを通じて、災害の恐ろしさと日頃からの備えの重要性を学ぶことができ、防災教育の重要性を改めて実感する機会となりました。

本市においても、防災訓練や防災教育を継続的に実施し、市民一人ひとりの防災意識の向上を図ることが重要である。特に、学校教育と連携した防災学習の充実や、地域住民が災害時の行動を具体的にイメージできるような体験型の防災教育の導入などを検討していく必要があると考えます。

また各自治会にある公園についても、平時は地域の憩いの場として活用しながら、災害時には一時的な避難場所や防災活動の拠点として活用できるよう、防災機能の充実を図る視点が重要であると感じた。地域の公園を活用した防災訓練や地域住民主体の防災活動を進めることで、地域防災力の向上につながるものと考えます。

さらに、災害時における食料供給の確保という観点から、本市の学校給食センターが果たす役割についても重要である。災害発生時には、給食センターを活用した炊き出しや食料供給の拠点として機能させることができる可能性があり、施設の設備や運用体制について平時から検討しておくことが必要である。

今回の視察を通じて、防災教育の充実と地域に身近な施設を活用した防災体制の強化が重要であることを改めて認識した。本市においても、学校・地域・行政が連携した防災教育の推進とともに、公園や公共施設を活用した地域防災力の向上に取り組んでいくことが求められると考えます。

